

2024 年度 駒沢女子大学

# 「学修到達度の確認」実施報告書

4 年終了時確認報告書

教育指針に関する検討委員会

## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
34名	32名	94.1%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	4	12.5%	21	65.6%	8	25.0%	0	0%	2.84
	人間性	4	12.5%	24	75.0%	4	12.5%	0	0%	3.00
DP2	コミュニケーション力	8	25.0%	11	34.4%	13	40.6%	0	0%	2.84
	社会性	5	15.6%	14	43.8%	13	40.6%	0	0%	2.75
DP3	専門力	5	15.6%	19	59.4%	8	25.0%	0	0%	2.91
	判断力	2	6.3%	17	53.1%	13	40.6%	0	0%	2.66
DP4	技術力	3	9.4%	12	37.5%	16	50.0%	1	3.1%	2.53
	実践力	2	6.3%	12	37.5%	17	53.1%	1	3.1%	2.47

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

〔参考〕 全体平均 2.75 高評価：人間性 (3.00) 専門力 (2.91) 低評価：技術力 (2.53) 実践力 (2.47)

(1) 2年終了時に高評価を得たのは「人間性 (2.6)」「教養力 (2.5)」であったが、4年終了時では「人間性 (2.6→3.0)」に加え「専門力 (2.5→2.9)」と高評価が増加した。3年次以降に履修する専門科目での学修成果を学生自身が実感している表れと言えよう。また、「人間性」への高評価は、4年間を通じて日本文化を教養として学修することで、豊かな人間性の養成に大きく繋がったと考えられる。

(2) 一方で、3年次以降に履修する専門ゼミを中心に養成されるべきである「技術力 (2.2→2.53)」「実践力 (2.2→2.47)」が他の項目にくらべて低評価となっている。2年終了時のデータと比較すればいずれも向上しているものの、当該項目の学習指針(日本文化の創造的担い手となる技術力・社会で活用していく実践力)の到達点が学生にとって実感し得なかったようである。

(3) いずれの項目も2年終了時と比べれば向上しているが、CPの教育内容には「自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成」と明記しており、その向上を基幹とした授業運営の工夫が求められる。

#### 4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
人間性	<p>学生の87.5%がレベル3.4の高評価をつけている（2年終了時：66.7%）。専門ゼミの各教員が日本文化に関する「専門力の向上」だけでなく、文学や歴史学、民俗学を問わず「豊かな人間性の養成」と関連付けて講じた結果と考えられる。</p>
専門力	<p>レベル3.4と評価した学生が全体の3/4（75%）に達した（2年終了時：55.6%）。専門科目の履修だけでなく、専門ゼミにおける卒業研究（卒業論文・ゼミ論文）作成を成し遂げた達成感が学生の高評価につながったと推測される。</p>

#### 5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
技術力・実践力	<p>2つの領域は、5割強の学生がレベル2もしくは1と低く評価する。3.4年次に履修する専門科目や専門ゼミでの学修を社会で活用していく実践力と、独自性や創造性を打ち出す技術力を学生が実感し得なかったのであろう。実際、日本文化の学問領域の性質からか「社会に応用し得る、現実可能な具体的な策や案を生み出すのは難しい」とコメントした学生がいた。今後、個別の文化事象の概要を見究めるだけでなく、現代的あるいは実践的な視座で日本文化を捉え活かすDP4の向上が急務であり、より具体的な到達地点（目標）を提示していく必要があると考える。</p>

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
判断力・実践力	<p>既知の情報や知識をインプットするのではなく、それらを批判的に検証し、問題点や矛盾点にみずから気づき、独自の考えや視点を創造する力の向上を期し、本専攻ではすでに専門ゼミを横断した個人発表の機会を設け、より多くの学生と活発に議論できる学修環境の工夫を講じている。一方で「少人数の方が意見交流の機会が増え、コミュニケーション能力の向上につながった」との学生コメントもあるので、学修環境の設営は学生個々の向学心（意欲）を見究め、臨機応変に調整していきたい。</p>





## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

### 1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
23名	28名	82.1%

### 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	5	21.7%	9	39.1%	6	26.1%	3	13%	2.2
	人間性	15	65.2%	6	26.1%	1	4.3%	1	4.3%	2.9
DP2	コミュニケーション力	5	21.7%	11	47.8%	5	21.7%	2	8.7%	2.3
	社会性	9	39.1%	8	34.8%	5	21.7%	1	4.3%	2.5
DP3	専門力	3	13%	8	34.8%	10	43.5%	2	8.7%	2.1
	判断力	5	21.7%	12	52.2%	5	21.7%	1	4.3%	2.4
DP4	技術力	4	17.4%	13	56.5%	5	21.7%	1	4.3%	2.4
	実践力	3	13%	14	60.9%	5	21.7%	1	4.3%	2.3

### 3. 検証結果

<p>〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。 4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。 また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。</p>
<p>(1) 教養力：2年終了時にはレベル2の層が厚く、レベル3、レベル4が薄かったが、卒業時にはレベル3及びレベル4へと到達している学生が多く見られる。</p> <p>(2) 人間：もともと2年終了時でもレベル4の学生が大半を占めていたが、卒業時にはその割合がさらに増えている。</p> <p>(3) コミュニケーション力：2年終了時にはレベル2の学生が多かったが、卒業時にはレベル3およびレベル4へとシフトしており、学修成果が見られる。</p> <p>(4) 社会性：もともと2年終了時でもレベル3まで到達している学生が多かったが、卒業時にはレベル3、レベル4の割合が増えている。</p> <p>(5) 専門力：2年終了時にはレベルは全体的に低めであったが、卒業時にはレベル3、4の割合が増加した。</p> <p>(6) 判断力：2年終了時にはレベル2が多かったが、卒業時にはレベル3の層が厚くなった。</p>

(7) 技術力：2年終了時にはレベル2が多かったが、卒業時にはレベル3の層が厚くなった。

(8) 実践力：2年終了時にはレベル3の学生が多かったが、卒業時にはレベル3の数も増え、全体的にレベルアップが見られる。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	「多様な価値観をどれくらい受け入れられますか？」という問いに対して非常に高いレベルを示している。多様性が叫ばれる時代にあって、そのことを授業等で学ぶ機会もあり、適切に対応できる力が身につけているものと思われる。
社会性	「社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っていますか？」という問いに対して高いレベルを示している。社会における責任や使命感というものを意識できる社会性が身についたものと判断する。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
専門力	「世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい持っていますか？」という問いに対するレベルが若干低いように思われる。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
専門力	英語コミュニケーション専攻を卒業したことで、社会的には英語の専門知識があり、英語力や資格も有していると思われる。そういう意味では、TOEICや英検を積極的に受験させたりすると同時に、学生に対して自ら目標を設定し、それを実現していくよう指導することが肝要と思われる。



## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

### 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
76名	59名	78%

### 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	13	22%	28	47%	16	27%	2	3%	2.88
	人間性	16	27%	30	51%	11	19%	2	3%	3.02
DP2	コミュニケーション力	21	36%	25	42%	12	20%	1	2%	3.12
	社会性	18	31%	22	37%	16	27%	3	5%	2.93
DP3	専門力	13	22%	24	41%	18	31%	4	7%	2.78
	判断力	13	22%	26	44%	18	31%	2	3%	2.85
DP4	技術力	12	20%	23	39%	19	32%	5	8%	2.71
	実践力	10	17%	23	39%	18	31%	8	14%	2.59

### 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

学修指針に示される8つの能力のうち、「実践力」を除く全能力で「身についた」(lv.2)以上を選択した者が9割を超え、「実践力」では約9割であった。4年終了時の調査で、全ての項目で9割もしくはそれ以上の学生が「身についた」以上の回答をしていることから、専攻の目指す学修目標は達成しているといえる。

より高水準での達成を検証するため、4「非常に身についた」(lv.4)と3「かなり身についた」(lv.3)に絞れば、得点の高い順に「人間性」「コミュニケーション力」(約8割)、「教養力」「社会性」「判断力」(約7割)、「専門力」「技術力」「実践力」(約6割)であった。2年終了時の「社会性」「コミュニケーション力」(約6割)、「人間性」(約5割)、「判断力」「教養力」「実践力」(約4割)、「専門力」(約3割)、「技術力」(約2割)の得点と比して、全体的な底上げに加え「専門力」「技術力」の大幅な向上が特徴といえる。3年次以降の専門科目の履修や専門ゼミへの所属が得点伸長に寄与したと考えられ、以上からCPとAPは適切に機能したと考えられる。

#### 4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
人間性	<p>学生が多様な考えに触れることを意図し、一つのトピックに対し専門の異なる教員が一堂に会し意見する機会が必修科目等で多く設定されている（例 現代社会総合講座）。また自由記述をみれば、ゼミ活動は自分の視野を広げながらも、自分の立場を明確にした上で他者に意見を伝える場として機能したと推察され、このことが「自立した思考の必要性を理解し、自分自身の価値観を構築しようと努力」する「人間性」の醸成に有効であったと考える。</p>
コミュニケーション能力	<p>ゼミ活動やグループワークやプレゼンの多さ、授業後課題やレポート等が、学生の自由記述にあるように、上記の自分の考えを持つという人間性の向上に加えて、それを言語化する学生の能力向上に役立ち、同指針が高い水準で達成されたと考えられる。</p>

#### 5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
専門力・技術力・実践力	<p>同指針が高水準で達成されるべく目指される内容に共通する点は、単に知識を取り込むだけでなく、知識を自分で高める・そのための方法を知ること、また知識を日常生活に活かし、実践することであるとされる。すなわち、得た知識を伸ばす、活かすといった応用の視点である。自由記述では、2年次に比べ「知識を他者に広める／他者と意見を共有する」記述がみられるものの、「授業内で取り上げられた課題やテーマについて深く考えても、授業外で自分自身で社会問題について考えるということとはあまりなく、社会の一員として実践的な行動をするということとはできていなかった」ともあるように、まだ学びが教室内に留まっている可能性が考えられた。より知識を自らで高める、生活に活かすといった主体的な学びと実践とが必要となる。</p>

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
専門力・技術力・実践力	<p>まずは教室内で、教員が知識を日常で応用する方法や事例を伝えることが一つである。また、授業内で学生に知識を生活に活かす工夫や例を考えさせ実践させるなど、より学生の興味関心を教室外まで広げる工夫が求められる。</p>



## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
65名	38名	58.5%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	3	7.9%	27	71.1%	7	18.4%	1	2.6%	2.8
	人間性	9	23.7%	20	52.6%	9	23.7%	0	0.0%	3.0
DP2	コミュニケーション力	8	21.1%	15	39.5%	13	34.2%	2	5.3%	2.8
	社会性	7	18.4%	22	57.9%	8	21.1%	1	2.6%	2.9
DP3	専門力	6	15.8%	17	44.7%	15	39.5%	0	0.0%	2.8
	判断力	4	10.5%	17	44.7%	15	39.5%	2	5.3%	2.6
DP4	技術力	3	7.9%	21	55.3%	14	36.8%	0	0.0%	2.7
	実践力	5	13.2%	14	36.8%	18	47.4%	1	2.6%	2.6

## 3. 検証結果 65

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- どの項目もレベル3の割合が最も高い
- 概ね8割の学生がレベル3以上を報告しているのはDP1及び社会性（DP2）であった
- レベル1を回答した者は0~2人と概ね少なかった
- 2年終了時と比べ、平均値はどの項目も0.5-0.9程度上昇している。したがって2年時から始まる心理学の専門的学びの観点からは、DP・CP・APが適切に設定されていると言える。
- 回答割合は2年終了時と比べ、下落している（約9割→約6割）
- 4年間の学びの感想を書かせた自由記述には、視野の広がり、知見の活用、自己成長、コミュニケーション力や共感力の向上、論理性や技術性の発達、他者理解など、心理学類が掲げた学習指針が満遍なく反映されており、本学心理学類の教育の一貫性・妥当性が示唆された。

#### 4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
研究実施について	特に自由記述において卒業論文・ゼミ論文での研究活動を通して学びが深まったという回答が多くみられた。最終学年での研究活動はDP1 から4までの力を伸ばすことができると考えられるため、次年度からは3年次以下も見学可能な卒業論文・ゼミ論文発表会を開催し、研究を通じた学習活動をより積極的に推進していく。

#### 5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
社会的望ましきによる影響について	8割以上の学生がレベル3以上を報告した項目はDP1及び社会性（DP2）に留まっている一方、自由記述では、コミュニケーションの力（DP2）が伸びたという報告が非常に多く、伸びたという学生の自己評価が、数値での回答とに反映されていない可能性がある。原因として、少なくない学生（特に専門職志望学生）が公認心理師・臨床心理士といった専門職基準で自己評価を行い、自らの伸びを過小評価している可能性が考えられる。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
社会的望ましきによる影響について	実施時に（控えめな自己評価は謙虚さの表れともみなせるものの）あくまで学生自身の成長をみるための自己評価であるということをアナウンスする。



## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
57名	57名	100%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	a.教養力	13	22.8%	40	70.2%	4	7%	0	%	3.16
	b.人間性	30	52.6%	25	43.9%	2	3.5%	0	%	3.49
DP2	a.コミュニケーション力	22	38.6%	32	56.1%	3	5.3%	0	%	3.33
	b.社会性	24	42.1%	30	52.6%	3	5.3%	0	%	3.37
DP3	a.専門力	24	42.1%	30	52.6%	3	5.3%	0	%	3.37
	b.判断力	16	28.1%	33	57.9%	8	14%	0	%	3.14
DP4	a.技術力	17	29.8%	35	61.4%	5	8.8%	0	%	3.21
	b.実践力	20	35.1%	34	59.6%	3	5.3%	0	%	3.30

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

本年度の「学習到達度の確認」に係るアンケート調査では、4段階評価のもと、各項目ともに多くの学生が「概ね到達している」以上の自己評価が確認された。2003年5月に実施した2年終了時調査においては3段階評価手法を用いたため、検証結果の単純比較はできないものの、前述調査では調査項目8つの中、1b人間性と2aコミュニケーション力を除いて、その他項目が平均値2（上位評価）に達していない状況に対し、本調査（4年次）では全ての項目が平均値3（上位評価）以上の評価が得られていることから、各分野で等しく成長したと判断できる。特にDP1b（人間性）、DP2b（社会性）、DP3a（専門力）の各項目では、平均値が3.49、3.37、3.37となり、学生が他者との関係性や協調性を重視しながら学びを深めていることが確認される。この結果は、駒沢女子大学観光文化学類が推進する「観光業界で活躍できる人材の育成」や「人と人つなぐ文化の架け橋」の理念が反映されているものと考えられる。一方、DP3b（判断力）、DP4a（技術力）、DP4b（実践力）に関しては、それぞれ3.14、3.21、3.30とやや慎重な評価が見られた。これらの項目は、より専門的な知識の活用や高度な分析力を求めるもの

であり、学生が課題解決型学習や研究を通じて自らの能力を客観的に評価している可能性がある。特に DP4b（実践力）については、今後の社会での応用を見据えた学びの中で成長の余地があると考えられる。DP 達成に向けた CP および AP は、基礎から応用へと発展する段階的な学修設計が整備されており、特にインターンシップや旅行研修等の実践的プログラムを通じて DP1～4 の各項目に関連するスキルの向上にいかに関与されるのかを継続的に検証し、今後さらなる学習プログラム改善及び内容更新の検討を続けていきたい。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	DP1b 人間性は全調査項目の中でも、「到達している」を選んだ回答「30名」が最も多く確認された。観光文化学類の学びにおいて、ホスピタリティ教育の充実が重視されており、インターンシップ実習や旅行研修等の科目を通じた実践的な学習が提供されている。特に、ホスピタリティ業界における実務体験プログラムや、異文化理解を促進する専門教育科目等により、学生の多様な価値観の受容を深める機会につながった結果であると考えられる。
社会性・専門力	DP2b 社会性、DP3a 専門力は「到達している」を選んだ回答が24名と多く、平均値3.37の結果となり、観光の専門力とともに社会的責任に対する意識の向上が確認された。特に観光文化学類では「ツーリズムコマジョ」などの正課外活動が積極的に実施されており、学生が主体的に観光・文化関連の調査やイベント企画に携わることにより、実際の社会課題の把握や解決策の検討を行うことで、観光分野の実践的なスキルを学習するとともに、学生の社会的使命感や責任感の向上も図られていることが確認される。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
判断力・技術力	DPの8項目において、DP3b 判断力（8名）とDP4a 技術力（5名）の「あんまり到達していない」と低い評価を選んだ学生が一定数見られる。特に、これらのスキルは知識を活用し、応用する力が求められるため、学生が自己の習熟度を厳しく判断している可能性も考えられる。
実施及び運用方法	上記の判断力・技術力を含め、各DP項目で少人数の学生が「あんまり到達していない」を選んでいるものの、自己評価の判断基準に係る記述を含め、今後のフィードバックに繋がる記述がほとんど発見されないため、改善策への貢献度が低いアンケート結果になっている点などが挙げられる。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
判断力・技術力	本調査結果では、低い評価を選んでいる学生はその他【複数の項目】でもやや低い評価を選んでいる傾向があり、学生間の学力の差が発生していることが懸念される。今後は2年次の担任指導や3年次以降の専門ゼミにおいて、学習・単位取得状況や資格取得状況の継続的な確認を含め、個別の進路設計

	や悩みに応じて個別指導を強化していきたい。
実施及び運用方法	学生が自身の到達度を把握しやすい指標を設定し、アンケート内容における指標に関する説明文の追記や自由記述欄の記入ガイダンス等を通して、現状の課題把握とそのフィードバックに繋がる記載内容に更新していく方針である。

## 7. 自己評価コメントまとめ

自己評価の自由記述欄では、観光地域の発展やホスピタリティに関する学びが印象に残ったという意見が多く見られた。特に「インターンシップを通してホスピタリティ精神を学び、アルバイト活動や就職活動に役立てることができた」というコメントが複数確認され、実習や体験型の学習が学生の成長に寄与していることが考察できる。さらに、コミュニケーション力の向上を実感した学生も多く、「グループワークやディスカッションを通じて、多様な価値観を受け入れる力が身についた」「プレゼンテーションの機会が多く、発表するスキルが向上した」などの意見が寄せられた。特に、フィールドワークやゼミ活動などの実践的な学びが、協調性や対人関係のスキル向上に役立ったと考えられる。

一方、DP3（専門力）やDP4（実践力）の項目に関しては、「もっと積極的に資格試験に挑戦すればよかった」「専門的な知識を実際の業務にどう活かすかを学ぶ機会がもっと必要だった」など、より実践的なスキルを習得したいという意欲的な意見も確認された。そのため、今後は資格試験対策や専門ゼミでの実践的な指導を強化することで、学生の学習機会をさらに充実させる必要がある。

資格試験・外部試験受験状況については、下記の表1で取りまとめた。

資格試験・外部試験の受験状況に関しては、「自分のペースで学習し、試験を受けることができた」「大学の図書館などのリソースを活用した」という積極的な取り組みが見られた一方で、「あまり受験しなかった」「試験にもっと挑戦すればよかったと後悔している」というコメントも散見された。2年終了時の調査結果における今後挑戦したい資格及び受験希望者の数字と比較しても、今回調査結果の数字はやや減少しているため、今後は資格取得を目指す学生のサポートとして、学習支援センターや専門ゼミとの連携を強化や資格試験対策の講座を充実させること等の引き続き検討したい。

表1 各検定・試験の受験者数・合格者数とその内訳

検定の種類	受験（名）	合格（名）	内訳
秘書検定	8	2	2級3名、3級1名
ニュース時事能力検定	1		3級1名
実用英語技能検定	7	7	2級5名、準2級1名、3級1名
観光英語検定	12	5	2級3名、3級2名
総合旅行業取扱管理者	1		
日本語能力検定	2	1	N11名、
漢字検定	1	1	3級1名
世界遺産検定	15	13	2級3名、3級10名
サービス接客検定	1	1	2級1名
アンティーク検定	7	5	3級3名、不明2名
中国語検定	2	1	2級1名
韓国語検定	1	1	5級1名
TOEIC	13		580点以下6名、600点1名、750点1名
国内旅行業取扱管理者	6	1	
受験なし	15		
該当しない（資格なし）	21		（受験あり、取得資格なし6名）



## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
69名	56名	81.2%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	11	19.64%	32	57.14%	11	19.64%	2	3.57%	2.93
	人間性	7	12.50%	40	71.43%	9	16.07%	0	0%	2.96
DP2	コミュニケーション力	4	7.14%	32	57.14%	18	32.14%	2	3.57%	2.68
	社会性	17	30.36%	25	44.64%	13	23.21%	1	1.79%	3.04
DP3	専門力	4	7.14%	33	58.93%	17	30.36%	2	3.57%	2.70
	判断力	4	7.14%	32	57.14%	17	30.36%	3	5.36%	2.66
DP4	技術力	10	17.86%	31	55.36%	13	23.21%	2	3.57%	2.88
	実践力	11	19.64%	30	53.57%	13	23.21%	2	3.57%	2.89

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- (1) 教養力は同学生の2022年度2年次平均(2.47)と比較して0.46点向上し、3番目に上昇率が高い。
- (2) 人間性の平均は8項目中2番目に高く、2年次平均(2.73)からは0.23点向上し、上昇率は最も低い。
- (3) コミュニケーション力は2年次平均(2.42)から0.26点向上し、上昇率は2番目に低い。
- (4) 社会性の平均は8項目中最も高く、2年次平均(2.59)と比較して0.45点向上した。
- (5) 専門力は2年次平均(2.38)から0.32点向上した。
- (6) 判断力は2年次の平均点が最も低い(2.23)項目で、0.43点向上したが、8項目中平均が最低点。
- (7) 技術力は2年次平均(2.27)と比較して0.61点向上し、最も上昇率が高い。
- (8) 実践力は2年次平均(2.42)と比較して0.47点向上し、2番目に上昇率が高い。
- (9) 2022年度2年次平均点と比較してすべての項目で向上し、特にDP4の2項目の上昇率が高い。
- (10) 上記結果および各項目の平均点に極端な偏差がないことから、CP、APの内容は概ね適切と判断する。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
実践力	3年前後期スタジオで実施した産学連携課題コマジョデコール・コマジョスタイルにおける、実践的な課題のプロセスが実践力の向上につながった。
技術力	4年次の卒業研究・スタジオ課題を通して、専門とする分野の企画・計画・プレゼンテーション等の実施が技術力の向上につながった。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
判断力	2年次と4年次で平均点がともに8項目中最低点であった。専門分野に関する事例について、論理的に批判できる力を一層身につける必要がある。
実施及び運用方法について	対例年に比較して象者数に対して実施人数が少なかった。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
判断力	専門分野に関する事例について、論理的に批判できる力を身につけるために、各科目の中で、事例を論理的に批判するレポート等の課題の実施や、課題エスキスや講評会などで学生同士で講評するなどの機会を増やすこと等を検討する。
実施及び運用方法について	スタジオ（ゼミ）の中で告知と回収が余裕をもって実施できるように、時期と方法を検討する。







## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
68名	44名	64.7%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	4	9.1%	35	79.5%	5	11.4%	0	0%	3.0
	人間性	4	9.1%	32	72.7%	8	18.2%	0	0%	2.9
DP2	コミュニケーション力	11	25.0%	24	54.5%	9	20.5%	0	0%	3.0
	社会性	6	13.6%	30	68.2%	8	18.2%	0	0%	3.0
DP3	専門力	15	34.1%	27	61.4%	2	4.5%	0	0%	3.3
	判断力	3	6.8%	35	79.5%	6	13.6%	0	0%	2.9
DP4	技術力	6	13.6%	24	54.5%	14	31.8%	0	0%	2.8
	実践力	6	13.6%	30	68.2%	8	18.2%	0	0%	3.0

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

すべての項目について、2年終了時と比べて大幅に平均値が増加している。特に専門力については、レベル4と自己評価した学生が34.1%と2年生時の11%に比べて大幅に増えた。3年次以降のカリキュラムにより、専門力を十分に高められたことが確認できた。人間性、コミュニケーション力、社会性に関する自己評価も2年次に比べて大幅に上がっており、本学科での学修により、専門性のみならず、社会人として活躍する際に必要なスキルを伸ばすことができていることが確認できた。一方で、技術力については、レベル2の評価が31.8%であった。これは、臨地実習等で管理栄養士として求められる技術力の高さを目の当たりにして、技術力については大学の学修だけでは充分ではないと冷静に自己評価する学生が多かったためではないかと推察できる。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
専門力	実践力のある管理栄養士を養成することを目指しており、学生時代に身に付けておくべき専門力を様々な授業、プロジェクトを通して学生に提供していることから、学生の自己評価の向上に繋がった。

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
技術力	正規授業の課題が多いため、取り組みを増やすことは難しい。しかし、さらなるスキルアップを目指す学生に対しては、学生が伸ばしたい技術力を高められるプロジェクトの提供をさらに充実させる必要がある。

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
技術力	技術力を伸ばすために、学生有志により学園すべての学生や教職員が健康的に過ごせるような活動を行う「アクティブ！Komajo Campus Life プロジェクト」、女性アスリートへの食育活動を通してスポーツ栄養学を実践的に学ぶ「アスリート栄養サポートプロジェクト」、大学併設の認定栄養ケアステーションである「健康相談室」で行う地域貢献事業等をさらに充実させ、参加者の割合を増やしていく。





## 2024年度 4年終了時「学修到達度の確認」の報告書

## 1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
63名	60名	95.2%

## 2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	10	16.7%	39	65.0%	9	15.0%	2	3.3%	2.95
	人間性	28	46.7%	27	45.0%	4	6.7%	1	1.7%	3.36
DP2	コミュニケーション力	26	43.3%	27	45.0%	7	11.7%	0	0%	3.31
	社会性	20	33.3%	31	51.7%	8	13.3%	1	1.7%	3.16
DP3	専門力	11	18.3%	44	73.3%	5	8.3%	0	0%	3.10
	判断力	15	25.0%	35	58.3%	9	15.0%	1	1.7%	3.06
DP4	技術力	13	21.7%	38	63.3%	9	15.0%	0	0%	3.06
	実践力	12	20.0%	39	65.0%	9	15.0%	0	0%	3.05

## 3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

2023年度卒業生の評価結果と比較すると、全ての項目において平均値が上昇していた。特に、「判断力・技術力・実践力」をレベル4と評価していた割合が高くなっていた。「教養力」の平均値が2.95であったものの、他の7項目の平均値は3.05～3.36であり、ことに「人間性」は3.36という評価であった。

本年度卒業生は看護学科旧カリキュラムの最後の履修学生であり、当該学年が3年前期に確認した到達度(コミュニケーション力・専門力・判断力・技術力・実践力)と比較しても、全ての項目で平均値は上昇していた。コミュニケーション力2.47→3.31、専門力2.05→3.10、判断力2.05→3.06、技術力2.05→3.06、実践力2.37→3.05と、0.68～1.05ポイントも上昇しており、3年後期に実施されている領域別臨地実習から4年終了時までの実践を通した学修の効果が大きく反映されていると考えられる。

多くの学生が学修到達度の自己評価としてレベル3～4と認識していることから、DP達成のためのCP、APの適切性に問題はないと考えられる。

#### 4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
なし	

#### 5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
なし	

#### 6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
なし	





2024 年度 駒沢女子大学

**「学修到達度の確認」実施報告書**

4 年終了時確認報告書

2025 年 7 月 24 日

教育指針に関する検討委員会